

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300450
法人名	(株) ケイシン
事業所名	グループホーム 太陽の家
訪問調査日	平成20年10月16日
評価確定日	平成20年12月25日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 10月20日

[評価実施概要]

事業所番号	4670300450
法人名	(株) ケイシン
事業所名	グループホーム 太陽の家
所在地	鹿屋市今坂町12405-25 (電 話) 0994-44-6581

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年10月16日	評価確定日	平成20年12月24日

[情報提供票より] (20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 10月 4日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 9人, 非常勤 7人, 常勤換算 13.1人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋一部木造造り
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	25,500 円	その他の経費 (月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 850円			

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	10 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 86.1 歳	最低 77 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大隈鹿屋病院 小倉記念病院 辻畑歯科医院
---------	----------------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

市内の住宅地に開設されているホームは敷地内に保育園、居宅介護支援事業所、学童育成クラブが併設されており、日常的に周囲の生活音や子供達との関わりを持つ事のできる環境の中で利用者は穏やかに暮らしている。管理者、職員は「利用者の限りある命を大切に、楽しく過ごしてもらいたい、共に笑いたい」の思いをひとつにしてお年寄りに接している。職員の思いと努力の結果、利用者がピアノの練習に励んだり、寝たきりで入居された方が自立歩行できるようになったり、発語のない方が話すようになるなど成果が顕著に表われている。職員のケアに対する真摯な取り組みと研鑽意欲の高さは家族などの信頼関係に繋がっている。ホームは近隣の暮らしぶりに触れる機会が多く地域に根ざしたグループホーム運営の充実が期待される。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目:外部4)
	利用者が地域の中でその人らしく暮らしつづける事を支えていく理念を、補足して作成し改善課題に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組み前回の改善課題も含めて日頃のケアに対する気づきや反省の機会としてとらえている。職員から出された意見を改善課題として意欲的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は定期的に開催されている。ホームの取り組み状況や活動内容を報告している。認知症サポーター養成講座の呼びかけに家族代表が参加するなどサービスの質の向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設けている。家族などの来訪時や行事参加の際に意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。要望などに対しては十分に対応し納得を得られるようにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、地域行事に参加している。中学生の職場体験やボランティアも受け入れている。地域の人々に認知症サポーター養成講座を開催するなど幅広い交流が行われている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型のサービスの意義と役割、慣れ親しんだ地域で暮らし続けるための理念を職員の意見を集約してつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を原点にしながら毎年介護目標をミーティング時や日々の支援の中で確認しあい、共有に努め日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地域行事に参加している。中学生の職場体験やボランティアを受け入れ、リハビリ踊り、ハーモニカ演奏、敬老会が開催されている。また地域の人々に認知症サポーター養成講座を開催するなど幅広い交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、全員で自己評価に前回の改善課題も含めて日頃のケアに対する気づきや反省の機会としてとらえている。「地域の方々の来訪が少ないのでは…」などの意見も出され改善課題として意欲的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に開催されている。ホームの取り組み状況や活動内容を報告している。サポーター養成講座の呼びかけに家族代表が参加している。	○	ホームの安心・安全確保のために地域資源(消防署・警察署)関係からの参加も期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に毎月ホーム便りを届けながら事務所の取り組み状況や生活保護対象者の報告をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行しているホーム便りを発行している。家族面会時・行事の参加の際に身体状況や暮らしぶり・職員紹介・金銭管理を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けている。家族などの来訪時や行事参加の際に意見や要望を出しやすい雰囲気作りに心がけている。要望などに対しては十分に対応し、納得を得られるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者、家族などとのなじみの関係を重要視したケアを心がけている。やむをえない異動の場合にはホームの理念やケアの考え方をしっかり指導し、利用者へのダメージ予防に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けた職員は研修内容をミーティング時に報告している。定期的に行われる職員会議の中で勉強会はされているが、職員の段階に応じた計画的な取り組みは十分とは言えない。	○	職員の経験や役割に応じてさらに充実した学びの機会が確保できるように、より計画的な取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症ケア連絡協議会に加入している。研修や夏祭りに合同で参加して相互交流をしている。また地域の他事業所と定期的に勉強会をするなど交流に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際には本人と面談したり、家族や主治医により生活状態、思いや不安を十分に聞いている。なじめるように見学や説明をし、信頼関係を築き不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりの中で、その人の特技や役割(そばうち・地域のならわし・梅干・料理の味付け・野菜作り)などを発見し、職員が知らないことを教わったりしている。また、利用者の笑顔に職員は元気をもらいながら日々を共にしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の表現は口頭で表現したり、行動や表情で表現している。見守りとコミュニケーションに心がけ本人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状態や生活歴、希望を把握し、家族などの思いを聞き、カンファレンスで職員の気づきや意見を出してもらいそれらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要の関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な(6ヵ月毎)見直しと毎月評価をしている。利用者の状態変化や入退院の際は都度モニタリングを行い、評価結果を見直しに活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間医療連携をとっている。本人・家族などの要望に応じて病院受診や墓参り・外泊など必要な支援を柔軟に支援している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族などが希望しているかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して家族・医師・看護師を交えて話し合い職員も共有している。ホームが支援できる方向性を統一した指針が定められて家族などの同意書も作成されている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため尊厳に対する関わり方について職員会議などで話し合っている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事・レクリエーションなどその人の生活リズムと身体状況を大切にしながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家製野菜の収穫や買い物、下ごしらえなどできる事を一緒にしながら職員も同席して食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められているが、一人ひとりの希望や体調に合わせて支援できている。時々温泉入浴にも出かけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボランティアによるリハビリ踊り・3B体操・音楽療法・掃除・習字・草取りなど利用者の趣味や特技を発揮できるように支援している。保育園や学童保育の子ども達との交流や外食・みかん狩り・花見・温泉入浴などの気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物、隣接の保育園見学、外食に行っている。また、花見や葡萄・みかん狩りなど、外出の機会づくりを工夫し閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解しており、プライバシーに配慮しながら見守りに努めている。利用者は開放的で自由な生活をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導により、防災・消火訓練を地域住民参加で行っている。また緊急時の登録や協力住民に非常ベルを設けるなど地域の協力関係が出来ている。災害時の自家発電や備蓄もされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックして一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保が出来るように支援している。身体状況に合わせてミキサー食やキザミ食・おかゆを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓があり明るく清潔で換気良くテラスにはベンチやソファがあり、クッション性のある床材を使用したり、家具の配置、季節行事の装飾や生花など随所に工夫が行き届き家庭的な共用空間づくりである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具・鏡・時計・家族写真・仏壇等なじみの物品が持ち込まれている。また全盲の方にタタミ部屋を提供し、居心地良く過ごせる工夫をしている。		